

# 射水市内遺跡発掘調査報告V

— 水戸田地区分布調査・大乗妙典塔一字一石經調査他 —

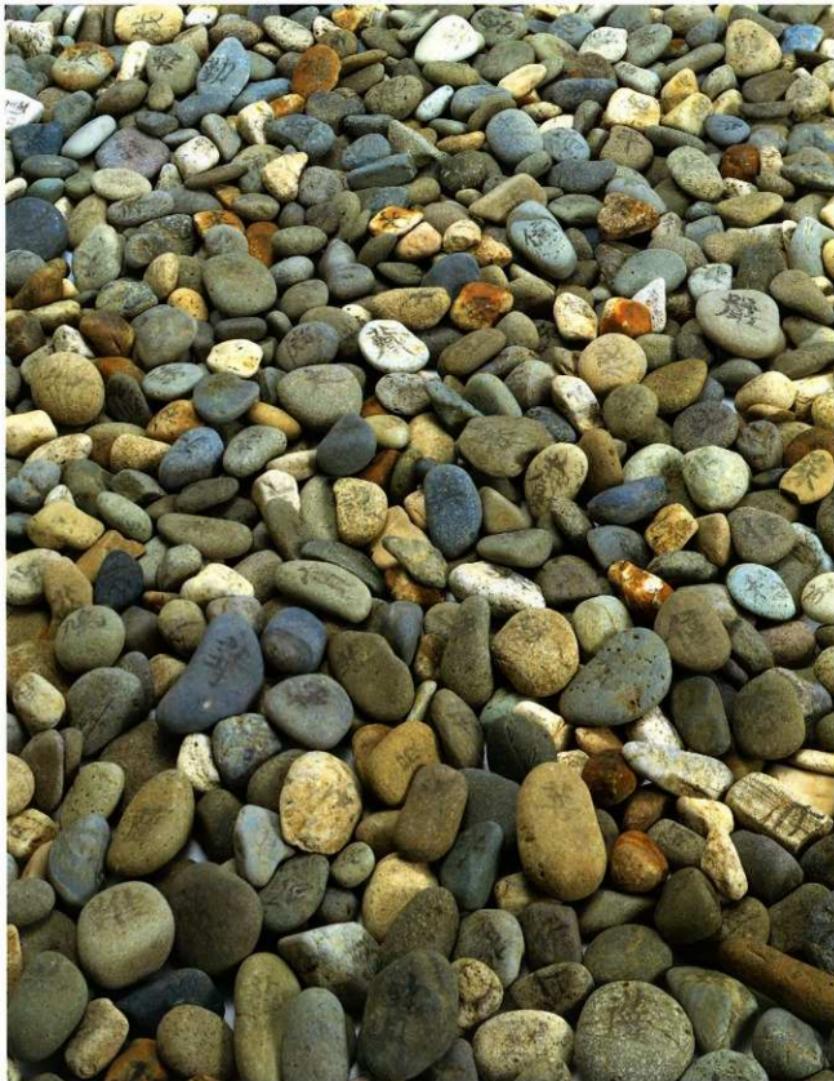
2013年

富山県射水市教育委員会



上 本江畠田Ⅰ遺跡4トレンチ遺構検出（西から）  
下 本江畠田Ⅰ遺跡出土遺物（古墳時代・室町時代（前列））

卷首圖版 2



大乘妙典塔 一字一石經（江戸時代）

# 射水市内遺跡発掘調査報告V

— 水戸田地区分布調査・大乗妙典塔一字一石經調査他 —

2013年

富山県射水市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、平成23年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 分布調査・試掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
- 3 対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
- 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会文化・スポーツ課主任 田中 明・主任 金三津英則・主任 松山充宏が担当した。
- 5 遺物整理の従事者は次のとおりである。  
高瀬直子・開 一美・堀整実津子・吉沢泰子（五十音順）
- 6 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系第VII系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 造構の分類記号は次の呼称を踏襲した。  
SD：溝 SK：土坑
- 3 造構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1/4を基本とするが、縮尺の異なるものはスケールとともにその縮尺を表記した。
- 4 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
- 5 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 6 第4章第1節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりとした。

●：繩文土器 □：弥生土器 ▽：土師器 ▲：須恵器 ■：珠洲 ▯：中世土師器  
○：中世陶磁器 ⊖：近世陶磁器 ◎：木製品 ☆：その他（近代以降） T：トレンチ

- 7 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。

■：須恵器・珠洲 ▯：赤彩処理

# 目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
第2章 水戸田地区分布調査 .....	3
第1節 調査に至る経緯と調査の経過 .....	3
第2節 調査の方法 .....	4
第3節 調査の概要 .....	4
第1項 基本層序 .....	4
第2項 遺構・遺物及び地形の状況 .....	4
第3項 歴史的環境と調査のまとめ .....	6
第3章 大乘妙典塔一字一石經調査 .....	10
第1節 調査に至る経緯と調査の経過 .....	10
第2節 調査の方法 .....	10
第3節 調査の概要 .....	10
第4章 その他の遺跡調査 .....	15
第1節 平成23年度試掘調査概要 .....	17
1. 黒河尺目遺跡 .....	17
2. 八塚C遺跡 .....	17
3. 生源寺II遺跡隣接地 .....	18
4. 下田遺跡 .....	18
5. 木江畠田I遺跡 .....	19
6. 黒河南遺跡 .....	20
7. 高島A遺跡 .....	20
8. 沖塙原東B遺跡 .....	21
9. 小杉伊勢領遺跡 .....	21
10. 加茂社遺跡 .....	22
11. 本江宮田遺跡 .....	22
12. 三ヶI遺跡 .....	23
13. 作道遺跡 .....	23
14. 朴木C遺跡 .....	24
15. 朴木C遺跡 .....	25
16. 黒河尺目遺跡 .....	25

# 卷首図版目次

卷首図版1 本江畠田I遺跡 4トレンチ遺構検出 出土遺物（古墳時代・室町時代）

卷首図版2 大乘妙典塔一字一石経（江戸時代）

## 挿図目次

第1図 射水市の位置	1
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図 調査対象地及び周辺の遺跡	3
第4図 分布調査平面図（1）トレンチ箇所及び遺物採取地点	5
第5図 分布調査平面図（2）埋蔵文化財包蔵地及び試掘調査対象範囲	7
第6図 分布調査平面図（3）調査対象地内旧地形復元	8
第7図 遺物実測図〔木戸田地区分布調査〕	9
第8図 調査対象地及び周辺の遺跡	10
第9図 大乘妙典塔実測図	11
第10図 試掘調査位置図	16
第11図 遺物実測図〔本江畠田I遺跡〕	26
第12図 遺物実測図〔本江畠田I遺跡・黒河南遺跡・加茂社遺跡・三ヶI遺跡 作道遺跡・朴木C遺跡・黒河尺日遺跡〕	27

## 表目次

第1表 出土遺物観察表〔木戸田地区分布調査〕（1～16）	9
第2表 索引文字一覧表〔大乘妙典塔一字一石経調査〕	13
第3表 平成23年度埋蔵文化財発掘調査一覧	15
第4表 出土遺物観察表〔試掘調査〕（1～54）	28

## 図版目次

図版1 水戸田地区分布調査	遠景 重機掘削
図版2 水戸田地区分布調査	土層断面 遺構検出
図版3 水戸田地区分布調査	遺構検出 遺物出土状況
図版4 水戸田地区分布調査	出土遺物
図版5 大乘妙典塔一字一石経調査	石塔近景
図版6 大乘妙典塔一字一石経調査	調査状況
図版7 大乘妙典塔一字一石経調査	一字一石経（あ行・か行・さ・す～そ）
図版8 大乘妙典塔一字一石経調査	一字一石経（し・た行・な行）
図版9 大乘妙典塔一字一石経調査	一字一石経（は行・ま行・や行）
図版10 大乘妙典塔一字一石経調査	一字一石経（ら行・わ・珠洲・寛永通宝・経文）
図版11 本江畠田I遺跡試掘調査	全景・トレンチ掘削・遺構検出
図版12 本江畠田I遺跡試掘調査	遺構検出・遺物出土状況
図版13 本江畠田I遺跡試掘調査	出土遺物
図版14 小杉伊勢領遺跡試掘調査	全景・遺構検出・出土遺物
図版15 加茂社遺跡試掘調査	トレンチ掘削・遺構検出・出土遺物
図版16 作道遺跡試掘調査	全景・遺構検出・出土遺物
図版17 朴木C遺跡試掘調査	遺構検出・出土遺物
図版18 黒河尺日遺跡試掘調査	全景・土層断面・出土遺物

# 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.18km<sup>2</sup>である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万5千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万~8千年前に形成された複合扇状地性三角洲沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は繩文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが濱み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛治川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境で、先人達は集落を形成していくものと考えられる。現在、市内には460箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A~D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営われてきたと考えられている。

戸田地区は、射水市のほぼ中央に位置する。地区の範囲は、東西約0.9km、南北約2.3kmであり、北部は水田地帯、南部は丘陵地となっている。

南部の丘陵地では、全長43mの前方後円墳である五歩一古墳をはじめ、昭和52年度から平成8年度にかけて継続的に実施された小杉流通業務団地の造成に伴う発掘調査によって、国指定史跡小杉丸山遺跡を中心に、古墳時代から古代に至る集落・古墳・須恵器窯・製鉄炉等が多数確認されており、県下有数の遺跡密集地域として知られている。

大島北野地区は、地内に北野A遺跡を擁し、庄川右岸に接した農村である。江戸期まで北野新村と称し、川に沿って上流の砺波地域と河口部の射水地域を結ぶ陸路と、庄川対岸の石瀬（高岡市）へ行き来する渡し舟もあり、交通の要衝となっていた。



第1図 射水市の位置



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

- 高島八幡跡
- 小杉丸山遺跡
- 小杉流通業務団地内遺跡
- 上野南遺跡
- ～●赤坂A～D遺跡
- 北高木遺跡
- 二口発免遺跡
- 小杉伊勢崎遺跡
- 五歩一古墳
- 北野A遺跡

## 第2章 水戸田地区分布調査

### 第1節 調査に至る経緯と調査の経過

平成22年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市水戸田地区における県営は場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は、平成24年度から30年度までの7か年計画であり、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設及び水田の切土・盛土を含み、大区画は場へ再整備するものである。

水戸田地区では、過去に小杉流通業務用地造成事業や、本田・生源寺地区のは場整備事業を契機として実施された発掘調査によって、本田宮田遺跡・本田畠田遺跡・水戸田遺跡・生源寺II遺跡・生源寺III遺跡・大白北遺跡・水戸田神明堂遺跡といった地区的四方縁辺部に至る埋蔵文化財の所在範囲が一定程度把握されているものの、地区の大部分を占める水田部においては発掘調査実績が少なく、埋蔵文化財に関する情報が不足していた。

そのため、は場整備事業の基幹となる整備計画水田範囲を対象とした分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地を含めた旧地形及び遺構面の遺存状況と、埋蔵文化財包蔵地の大まかな範囲を把握した上で、事業計画と埋蔵文化財の保護との調整を図る必要があった。

水戸田地区では、昭和35~37年に土壤の切上や移動を伴った耕地整理が実施されている。そのため、現地踏査による遺物の表面採集や現況地形の観察のみでは、旧地形の状況を確認することが困難であったことから、小規模なトレンチ発掘を併用し、表面採取による遺物の分布状況と、旧地形や堆積土壤等の地形状況を併せて確認することで、必要な情報精度を確保することとした。

関係者との協議の結果、平成23年度の耕作完了後に、射水市教育委員会が主体となって分布調査を実施し、次年度以降に必要範囲の試掘調査を実施することとなった。



第3図 調査対象地及び周辺の遺跡 (1 : 25,000)

- 水戸田遺跡 ●水戸田神明堂遺跡 ●生源寺II遺跡 ●生源寺III遺跡 ●生源寺遺跡 ●市ノ井東遺跡 ●堀田遺跡 ●本田宮田遺跡
- 本田畠田遺跡 ●大白北遺跡 ●赤田I遺跡 ●赤田東遺跡 ●日の富遺跡 ●日の富道路 ●五ヶ一遺跡

## 第2節 調査の方法

調査対象範囲は、ほ場整備事業計画区域約69haの全域とし、地表面の踏査による遺物の採取と現況地形の確認に加え、小型のバックホウを使用した幅約0.6m、長さ0.9~2.0mのトレーニング（以下Tと略す）発掘を実施し、地下の旧地形や土壤の堆積状況をあわせて確認した。

トレーニングは、概ね水田3~5枚に1か所の割合で任意に設定した。掘削の深度は、遺構面と考えられる地山層に到達するまでとし、遺構・遺物の有無を確認するとともに、実測及び写真撮影により土壤堆積状況の記録を作成した。また、バックホウの進入が困難な場所において、直径約6cmのボーリングステッキを用いた簡易ボーリング調査を4箇所で実施し、地形・堆積土壤確認の補足資料とした。

現地調査は、平成24年10月13日から11月16日にかけて実施した。掘削したトレーニングは計300箇所で、総発掘面積は約230m<sup>2</sup>である。

## 第3節 調査の概要

### 第1項 基本層序

基本層序は上層から順に、I層：暗灰黄色粘質土、II層：黒褐色シルト、III層：黒色シルト（腐植土層）、IV層：にぶい黄色・淡黄色・緑灰色シルト、V層：浅黄色・黄褐色砂礫となる。

I層は、現在の水田耕土、II層以下が自然堆積土である。また、I・II層間に、近代以降の堆積層及び耕地整理時の造成土等の人为的堆積層が見られる場所がある。

II層は、黒色系統のシルト層からなり、古代・中世の遺物を含む。III層は、植物遺体を含む腐植土層であり、IV層が深い場所を中心に堆積する。IV層は、地山のシルト層であり、遺構は全てIV層上面で確認している。丘陵裾部や谷部等、場所や地表からの深さによって色調や土質が異なる。V層は、地山の下層に堆積する疊層であり、丘陵裾部を中心とした一部においてのみ確認している。

トレーニング掘削では、V層の検出までを調査対象とした。

### 第2項 遺構・遺物及び地形の状況（第4~7図、図版1~4）

水戸田地区の地形状況を概観すると、地区中央を通る県道戸出・小矢部線沿いに形成された現集落を挟んで南側が丘陵地、北側が水田地帯となり、集落南辺と丘陵の間には東から谷が入り込んでいる。

調査対象範囲は、集落を挟んで南北に三分されており、水田部の標高は、南地区南端の丘陵縁辺で約18.5m、北地区北東端で約6.7mであり、南西から北東方向の緩傾斜地形となっている。

南地区は、現在の水戸田集落と丘陵間に形成された谷地形部分に位置し、北西部に生源寺Ⅲ遺跡、調査対象地南辺の丘陵上に水戸田神明堂遺跡が所在する。

生源寺Ⅲ遺跡は、県道戸出・小矢部線から続く比較的安定した微高地に位置する。13Tにおいて遺構を確認したが、削平の影響により遺存状況は悪い。平成11年度に隣接地で実施された試掘調査では、今回調査の281T南側で古代の遺構・遺物の広がりが確認されている。現在の遺跡範囲東部には谷状地形が存在しており、13・14・282Tを結ぶ範囲が遺跡の東限と考えられる。

水戸田神明堂遺跡付近では、293T東部で須恵器片1点を採集した。付近一帯は谷部の傾斜地に位置するため、耕地整理時の平坦地造成に伴う地形変更が著しい。また、II層以下に砂礫を含む場所が多く、遺跡の広がりは想定できない。

北地区は、全域が比較的平坦な緩傾斜地形であり、地区南西端部に生源寺Ⅱ遺跡、東部に水戸田遺跡、北端部に本田畠田遺跡・本田宮田遺跡、東部外縁に人白北遺跡がそれぞれ所在する。

水戸田遺跡では、遺跡範囲北部において須恵器・土師器片を採取した。36・54~57Tの範囲（第5



第4図 分布調査平面図（1）トレンチ箇所及び遺物採取地点

図A)では遺構内から土師器が出土し、69Tでは珠洲が出土した。

生源寺II遺跡では、遺跡範囲北東の43~49・82~95・97・103・276・277Tの広い範囲(第5図B)で遺構・遺物のまとまりが認められる。須恵器・土師器・珠洲等、古代・中世の遺物が広い範囲に散布しており、90~94Tでは遺構から須恵器・土師器・珠洲・八尾が出土し、44・45・49Tでは遺構を検出、43・95Tでは須恵器・珠洲がそれぞれ出土した。

その他、水戸田遺跡北東の128~133T一帯(第5図C)、生源寺II遺跡北方の158・159・270T一帯(第5図D)、地区中央部の165・167・170・258・260T一帯(第5図E)の範囲において、遺構・遺物のまとまりが確認できる。これらの範囲では、須恵器を中心とした古代の遺物が散布しており、133・258Tでは遺構内から土師器が出土している。

地形的には、生源寺II遺跡・生源寺III遺跡・水戸田遺跡一帯は、南西から続く緩傾斜地形上に位置している。また、Cの範囲は地区南東から続く微高地に、D・Eの範囲は地区南西から続く舌状の微高地上にそれぞれ位置しており、これらの微高地を分断する形で谷状地形が入り込んでいる。

以上の結果から、地区南西から続く緩傾斜地形や北地区の微高地を中心とした、周知の埋蔵文化財包蔵地を含む約28haの範囲で、埋蔵文化財の広がりが想定できる。

### 第3項 歴史的環境と調査のまとめ

水戸田地区の南半を占める丘陵部では、古墳時代～古代を中心とした40余りの遺跡の存在が知られている。特に、須恵器窯跡・製鉄炉等の集中が顕著であり、7世紀後半に小杉丸山遺跡で生産された瓦が、伏木の越中国府近隣寺院へ供給されていたことが確認されている。当地区一帯は、古くから良質の粘土採取地として知られ、昭和50年代後半まで瓦生産が盛んであったが、古代においても、良質の資源に恵まれた立地条件のもとで、越中国の大生産拠点を形成していた。

一方、丘陵部も含めて、古代末から中世にかけての様相は明らかでないが、近世初期の南葵文庫本「越中国絵図」には、既に「三渡田」の記載があり、遅くとも中世には集落の形成がみられる。また、地区の中央を通る県道戸出・小矢部線は、富山から今石動を結ぶ古道であり、中世期には海岸線沿いの浜往来と並ぶ越中西部の重要な街道であった。

近世に「上使往来」と呼ばれたこの街道には、地区西端で二口から南下した熊野往来が合流し、両街道の結節点には、犬曆10年(956)の創建と伝える真言宗の旧密藏寺が所在している。

永享7年(1435)、密藏寺は、水戸田地区北方の安吉地内に所在した慶国寺において舞楽曼荼羅供が執行された際、持金勧業として長真坊を出仕させている(「越中国般若野庄之内東部集福寺堂供養舞樂曼荼羅供記録」)。また、時代は不明であるが、水戸田地区北方の水田部には、水戸田集落発祥の地とされる「焼ノ宮」の地名が伝えられるなど、断片的ではあるが史料・伝承が残されている。

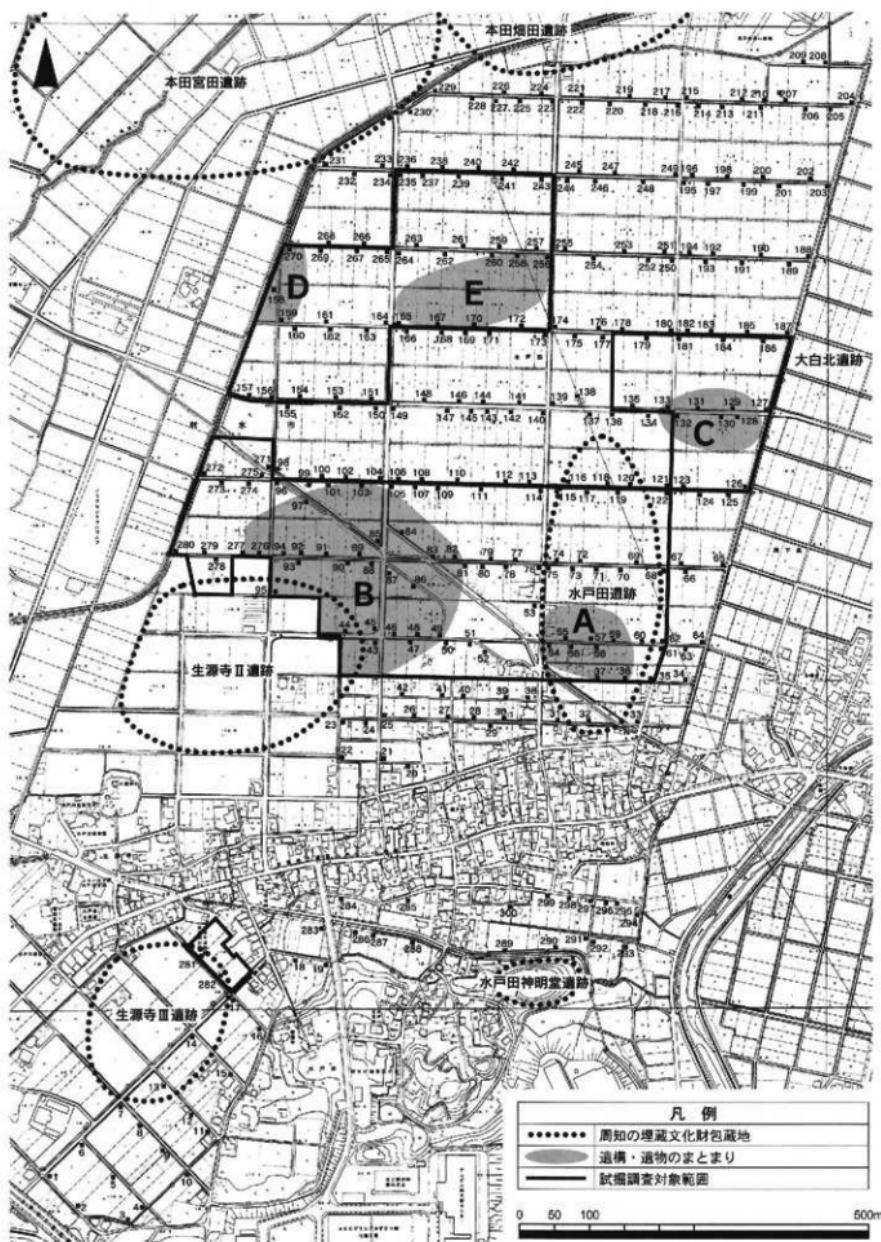
今回の調査では、古代～中世期の遺構・遺物のまとまりを複数確認したが、このような歴史的背景から、水戸田地区から安吉地内にかけて、寺院等に付随した当該期の集落の存在が想定できる。次年度以降に実施予定の試掘調査によって、近隣を含めた往時の様相が、より明らかとなるであろう。

### 参考文献

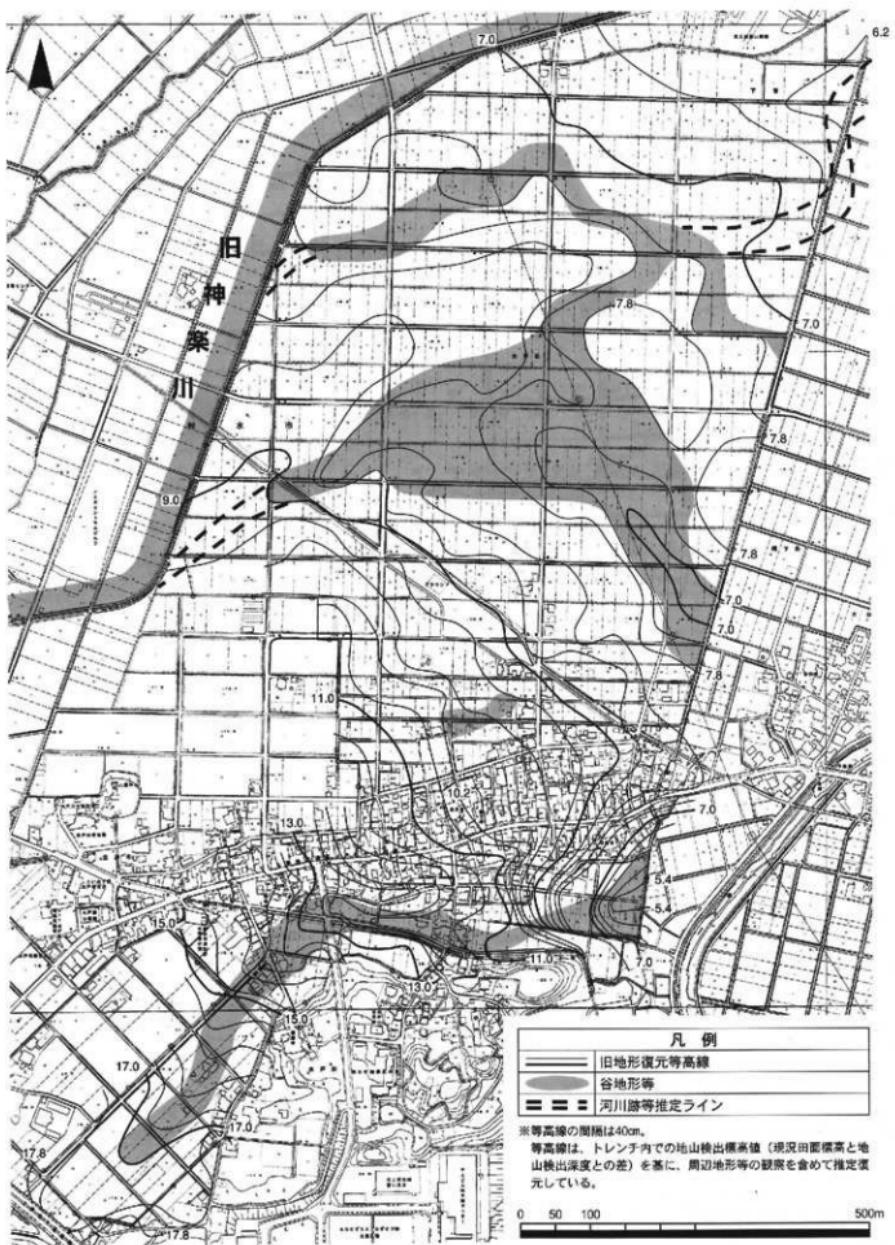
大門町 1981年『大門町史』

大門町教育委員会 2000年『県営ほ場整備事業(生源寺地区)に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告』

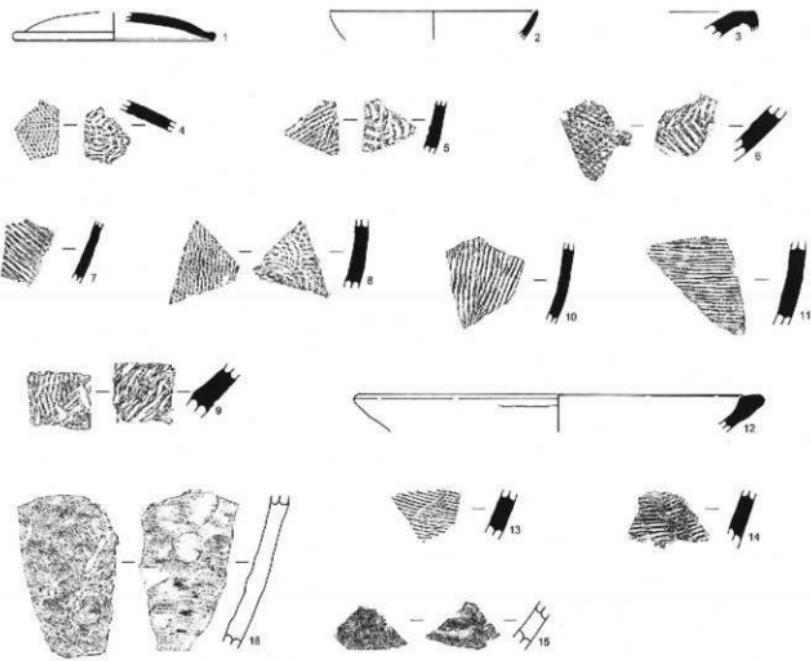
富山県埋蔵文化財センター 1994年『小杉流延業務用地内遺跡群第12次発掘調査概要』



第5図 分布調査平面図（2）埋蔵文化財包蔵地及び試掘調査対象範囲



第6図 分布調査平面図（3）調査対象地内旧地形復元



第7図 遺物実測図〔水戸田地区分布調査〕(1/4)

0 1:4 20cm

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第7図	1	129T	須恵器	蓋	16.0				口1/4
	2	表採	須恵器	坏	16.4				口1/12
	3	表採	須恵器	壳				自然軋付着	破片
	4	表採	須恵器	瓶					破片
	5	表採	須恵器	壳(董)					破片
	6	表採	須恵器	壳(董)					破片
	7	表採	須恵器	壳(董)					破片
	8	表採	須恵器	壳(董)					破片
	9	表採	須恵器	壳(董)					破片
	10	69T	珠洲	壳(董)					破片
	11	表採	珠洲	壳(董)					破片
	12	表採	珠洲	片口跡		32.6			破片
	13	92T	珠洲	壳(董)					破片
	14	95T	珠洲	壳(董)					破片
	15	表採	越前	壳(董)					破片
	16	93T	八尾	壳(董)					破片

第1表 出土遺物観察表〔水戸田地区分布調査〕

口：口縁部 底：底部 体：体部 壁：坏部 脚：脚部

# 第3章 大乗妙典塔一字一石経調査

## 第1節 調査に至る経緯と調査の経過

大乗妙典塔は、大島北野を通る富山県道11号新湊庄川線沿いに建立されていた石塔である。現状は、コンビニエンスストアの駐車場に隣接される形となって遺存していた。

平成22年度に、富山県が上記県道の拡張工事を実施することとなった。同工事により、石塔所在場所に歩道を拡張することとなり、石塔を南西約50メートルの位置へ移転することとなった。

石塔地下に「妙法蓮華經（以下、「法華經」と略称する）」（「大乗妙典」）を墨書した小石をはじめ文字資料が大量に埋納されている可能性もあったため、地域の歴史を記録し、後世へ継承する資料とする目的として、射水市教育委員会では調査を実施した。

## 第2節 調査の方法

業者が実施した石塔・基壇の解体作業に立会い、埋納物の有無を確認した。

解体中、基壇内部に円筒形石函が確認された。石函が置かれた地上からバックホウにより深さ40cmまで掘り下げたところ、墨書した小石が大量に見つかった。小石は全て掘り起こし、埋蔵文化財整理室に搬入して洗浄のうえ、墨書が残存する小石約2500個について、『大正新修大藏經』所収「法華經」と照合した。調査を終えた石箱及び全ての小石は、石塔の建立趣意と不可分の関係にあるため、移転作業実施業者に対して石塔移転先の地下へ埋納する旨を助言して返付した。

## 第3節 調査の概要（第9図、第2表、図版5～10）

埋納物として、越前青石製の円筒形石函1個、経石約65,000個、寛永通宝6枚、珠洲焼窯の破片1個が確認された。石函はコンクリートで封緘されていたため開封調査ができなかった。

経石は仏教の經典を書いた石で、石1個に1字、または1～3行程度書いた。この経石を埋めて塚を築き、塔を立てたものを経塚といい、古代から供養や祈願の対象とされてきた。

当該石塔に「一字一石 大乗妙典塔」と刻銘があるため、大乗妙典（=法華經）69,384字を一字ずつ小石に墨書したものと考えられる。

字を記した経石は480種1,228個が確認できた。このうち、法華經にある字が444種1,187個、法華經にない字が36種41個あった。いずれも、1石に1字ずつ墨書されていた。

詳細は第2表のとおりである。

当該石塔の設営は、曹洞宗の圓通寺（射水市大島北野182）2世住職である玄峰禪尼が企図し、文政3年（1820）11月に射水郡北野村字中尾佐（現・大島北野字中尾佐）で建立した（「大島村史」774頁）。しかし道路拡張により、昭和期に現在地へ移転した。このとき、経石は移転しなかったと



第8図 調査対象地及び周辺の遺跡（1: 25,000）

●北野B道跡 ●北野A道跡 ●若杉道跡 ●中野北道跡



第9図 大乗妙典塔実測図

0 1 30cm

されていた（『大島町史』335頁）が、今回調査で経石もほとんどが現在地へ移動していたことを確認できた。

大乗妙典塔（法華塔）は射水市内を初め富山県内においても多く残されている。その建立趣意は様々であるが、神通川で堤防上に大乗妙典塔を建立した事例もあることから、庄川に接する大島北野の大乗妙典塔の建立趣旨も、庄川の水害祈攘であったと考えられる。

一字一石の経石を納めた大乗妙典塔（法華塔）は、射水市内で確実な例として3基が確認されている。

戸破（北手崎）に立つ「法華塔」は天保4年（1833）11月の建立である。近隣にある長寿寺（曹洞宗）16世豚童が建立に関与した旨の刻銘がある。

戸破（新町）の金胎寺（真言宗）に立つ「大乗妙典塔」は、正徳4年（1714）3月の建立である。戸破の住人である一泉が、六十六部廻国巡礼を成就したことを記念して建立し、一字一石の経石を納めたことを刻銘する。六十六部廻国巡礼とは、日本全国66ヶ国を巡礼し、1国1ヶ所の靈場に法華経を1部ずつ納める宗教行為である。

戸破（中町）の日澄寺（日蓮宗）に立つ法華塔は弘化2年（1845）の建立で、同寺22世日孝が建立に関わった旨の刻銘がある。

これら3塔の共通点は、寺院の近接地に設けられ、寺院への入り口を示す道標としての性格を付与されたものであり、大島北野の大乗妙典塔とは建立趣意を異にしている。

#### 参考文献

- 大正一切經刊行会 1924年 『大正新修大藏經』法華部・華嚴部  
大島村 1963年 『大島村史』  
大島町教育委員会 1989年 『大島町史』  
小杉町教育委員会 1992年 『小杉町のいしぶみ』第1集

第2表 許読文字一覧表【大乗妙典塔一字一石經調査】

法華經に記載のある文字

字	よみ	数	次	かん	1	下	げ	1	四	し	5	書	しょ	1
阿	あ	7	歎	かん	1	碍	げ	2	子	し	3	諸	しょ	19
哀	あい	1	觀	かん	7	傷	げ	1	師	し	2	除	じょ	3
懲	あく	1	間	かん	4	啓	けい	1	斯	し	3	障	しょう	1
威	い	1	頗	がん	2	月	げつ	1	死	し	1	將	しょう	1
以	い	4	幾	き	1	懸	けん	1	之	し	3	小	しょう	4
惟	い	2	飢	き	1	堅	けん	1	肆	し	1	承	しょう	2
為	い	11	奇	き	1	見	けん	6	其	し	5	詳	しょう	1
謂	い	3	既	き	1	賢	けん	1	事	じ	1	正	しょう	3
已	い	2	棄	き	1	縣	けん	1	字	じ	1	生	しょう	6
雖	い	1	記	き	3	齋	けん	1	寺	じ	1	請	しょう	2
雜	い	2	起	き	1	毀	げん	1	持	じ	9	悼	しょう	1
育	いく	1	毀	き	1	玄	げん	1	次	じ	1	上	じょう	1
一	いち	17	疑	ぎ	3	狐	こ	1	爾	じ	5	乘	じょう	1
印	いん	1	宜	ぎ	1	古	こ	1	而	じ	8	城	じょう	1
因	いん	2	戲	ぎ	2	己	こ	2	耳	じ	3	常	じょう	6
雨	う	1	義	ぎ	2	故	こ	1	自	じ	4	杖	じょう	1
右	う	1	伎	ぎ	1	枯	こ	1	竺	じく	1	繩	じょう	1
優	う	2	巍	ぎ	1	五	ご	1	漆	しつ	1	仗	じょう	1
云	うん	3	丘	きゅう	1	後	ご	4	実	じつ	3	誠	じょう	3
于	うん	3	及	きゅう	3	怡	ご	1	舍	しゃ	8	囁	しょく	1
会	え	6	究	きゅう	2	語	ご	2	者	しゃ	4	信	しん	7
贊	え	1	去	きょ	1	護	ご	5	車	しゃ	1	深	しん	1
獸	えん	2	居	きょ	3	光	こう	4	闇	じゃ	2	真	しん	2
縁	えん	2	虛	きょ	1	幸	こう	1	枳	しゃく	3	神	しん	1
遠	えん	1	許	きょ	1	恒	こう	2	積	しゃく	1	秦	しん	1
焉	えん	1	砾	きょ	1	校	こう	1	昔	じやく	2	進	しん	1
於	おう	14	御	ぎょ	1	香	こう	7	趣	しゅ	1	甚	じん	3
往	おう	1	怯	きょう	1	高	こう	1	主	しゅ	1	尽	じん	5
応	おう	4	囚	きょう	1	劫	こう	3	取	しゅ	3	須	す	1
王	おう	3	絶	きょう	7	広	こう	1	殊	しゅ	1	隨	ずい	3
億	おく	1	敬	きょう	1	号	ごう	1	種	しゅ	2	瑞	ずい	1
音	おん	2	號	きょう	1	合	ごう	2	呪	しゅ	1	數	すう	2
家	か	1	伝	きょう	1	毫	ごう	1	受	じゅ	3	世	せ	3
佳	か	1	憚	きょう	1	告	こく	1	壽	じゅ	5	是	ぜ	28
加	か	1	仰	ぎょう	1	國	こく	1	授	じゅ	3	成	せい	1
可	か	2	行	ぎょう	5	今	こん	1	樹	じゅ	3	声	せい	6
果	か	1	饒	ぎょう	2	耕	こん	1	驚	じゅ	2	誓	せい	2
火	か	1	近	きん	2	言	ごん	5	誦	じゅ	3	齊	せい	1
訶	か	1	勤	きん	1	嚴	ごん	6	周	しゅう	1	石	せき	2
河	か	1	聚	きん	1	沙	さ	2	修	しゅう	2	前	ぜん	1
何	か	3	垢	く	1	寒	さい	1	終	しゅう	1	宣	せん	1
我	が	11	狗	く	1	歲	さい	1	しゅう	20	闡	せん	1	
臥	が	1	鳩	く	1	宰	さい	1	集	しゅう	2	前	ぜん	1
蠻	が	1	供	く	1	載	ざい	3	住	じゅう	1	善	ぜん	1
回	かい	1	句	く	2	在	ざい	3	十	じゅう	8	然	ぜん	4
界	かい	8	苦	く	3	作	さく	7	徒	じゅう	2	禪	ぜん	2
皆	かい	2	勞	く	1	薩	さく	17	柔	じゅう	1	僧	そう	1
聞	かい	1	俱	ぐ	2	三	さん	12	出	じゅつ	1	相	そう	4
懷	かい	1	具	ぐ	1	山	さん	1	潤	じゅん	1	草	そう	1
各	かく	4	空	くう	1	算	さん	1	順	じゅん	1	送	そう	1
覺	かく	1	化	け	1	譲	さん	2	處	しょ	1	爪	そう	1
學	がく	1	華	げ	8	賛	さん	1	所	しょ	13	藏	ぞう	2
渴	かつ	1	解	げ	1	至	し	4	底	しょ	1			

法華經に記載のある文字

字	よみ	数
則	そく	1
即	そく	4
足	そく	2
俗	ぞく	1
属	ぞく	1
賊	ぞく	1
尊	そん	8
陀	だ	1
退	たい	2
大	だい	13
第	だい	2
提	だい	1
脱	だつ	1
但	たん	3
丹	たん	1
單	たん	2
歎	たん	1
檀	だん	1
治	ち	1
知	ち	2
智	ち	3
駕	ち	1
棗	ち	1
中	ちゅう	6
頂	ちょう	1
暢	ちよう	1
慧	ちよう	4
鳥	ちょう	1
珍	珍ん	1
堅	つい	1
通	つう	1
弟	てい	1
點	てん	1
典	てん	1
天	てん	11
転	てん	2
伝	でん	1
嚴	でん	1
滌	と	1
上	ど	2
刀	とう	1
塔	とう	2
東	とう	1
當	とう	4
等	とう	5
頭	とう	1
癡	どう	1
道	どう	4
銅	どう	1
得	とく	11
徳	とく	4
特	とく	1
蔬	どく	1

乃	ない	2
南	なん	2
難	なん	4
ニ	に	12
尼	に	1
日	にち	1
若	にやく	11
汝	によ	2
女	によ	3
如	によ	4
鏡	よう	1
人	にん	10
念	ねん	2
能	のう	3
波	は	1
婆	ば	2
拜	はい	2
唄	ばい	1
白	はく	2
搏	ばく	1
八	はち	2
伐	ばつ	1
槃	はん	1
般	はん	1
譬	ひ	3
否	ひ	1
彼	ひ	3
比	ひ	2
非	ひ	2
微	び	2
筆	ひつ	1
貧	ひん	2
資	ひん	1
懲	ひん	1
怖	ふ	1
膚	ふ	1
不	ふ	11
富	ふ	1
布	ふ	2
普	ふ	12
父	ふ	4
復	ふく	6
服	ふく	1
仏	ぶつ	25
芬	ふん	1
分	ぶん	2
平	へい	1
辟	へき	1
別	べつ	1
偏	へん	1
變	へん	1
便	べん	2
菩	ぼ	8
崩	ほう	1

力	りき	1
立	りつ	1
量	りょう	4
林	りん	1
輪	りん	2
流	る	1
令	れい	1
裂	れつ	1
蓮	れん	2
爐	ろ	1
驪	ろ	1
論	ろん	2
和	わ	1
或	わく	2
計		1,187

法華經に記載のない文字

艸	えん	1
穏	おん	4
蒼	か	1
階	かい	1
寛	かん	1
估	きつ	2
縹	ぎやく	1
玉	ぎょく	1
警	けい	1
厥	けつ	1
歌	げつ	1
幻	げん	1
綱	こう	1
亢	こう	2
參	さん	1
春	しゅん	1
倘	しよう	1
嘗	しよう	1
申	しん	1
尋	すい	1
懶	せん	1
僧	ぜん	1
探	たん	1
築	ちく	1
僖	とう	1
憶	どう	1
坡	は	1
攻	ぱい	1
匍	は	1
已	み	1
竑	よ	1
用	よう	1
昌	りょ	1
綱	りょ	1
諒	りょう	1
計		41

合計 1,228

## 第4章 その他の遺跡調査

平成23年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査3件・試掘調査16件・本発掘調査1件・工事立会16件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で1割増加、調査原因の個人専用住宅建築がその3割強を占める結果となった。調査後の措置では、試掘調査2件において遺跡の広がりが確認されたため、盛土保存や本発掘調査（民間委託）を行った。

分布調査

No	所在地	原産	収穫期間	対象品目	種別	現況	検出病害	採集部位	採取後の処理
1	赤井330-1 例5号	高麗人参 納屋栽培	H23.5.18	2,449.3t	未栽培地	根茎部の 水泡	なし	なし	工事実施 (支度なし)
2	水戸市地区	はだね整地業者	H21.10.13～11.6	670.000t	散布地	根茎S-2 18.2mの水田	土・土壌(古代 代代葉落、中世 葉青縮、近世 葉落)	土・土壌(古代 代代葉落、中世 葉青縮、近世 葉落)	一畠測定を実 施する
3	加茂中澤106 外3段	宮原ひづ 前川農業	H23.11.22	3,981t	未栽培地	根茎部の 水泡	なし	近代理化験器	工事実施 (支度なし)
計	3件			476,440.3t					

試驗調查

番号	遺跡名	所在地	面積	調査期間	対象面積	実発面積	種別	検出構造	出土遺物	調査後の様相
1	黒瀬貝丘 211040	鳥羽市舟山446番1 55号	個人専用 住宅建築	H23.5.13	367.17m <sup>2</sup>	21.6m <sup>2</sup>	散布地・集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
2	丸山 211448	二丁目平野町 155番-2	平屋住家建設	H23.7.5	595m <sup>2</sup>	35.2m <sup>2</sup>	散布地・集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
3	御前山丘陵 211421	生駒市宮西122-3 211421	個人専用 住宅建築	H23.7.8	1,561.61m <sup>2</sup>	77.9m <sup>2</sup>	散布地	なし	なし	工事実施 (支障なし)
4	平岡 211259	青谷荘谷4番4 55号	直轄地開 工事(現切)	H23.7.21	78m <sup>2</sup>	14.8m <sup>2</sup>	散布地・集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
5	本江原町 211411	大門本江原字通用 67番地	宅地造成	H23.8.17~22	2,966.41m <sup>2</sup>	347.3m <sup>2</sup>	露路	道・土堤(古代 土堤)付近 古墳跡跡・古代 土堤跡	一部本江原側 露路	工事実施 (支障なし)
6	黒瀬河 211127	黒瀬河字山335-1 55号	駐車場造成	H23.9.26	461m <sup>2</sup>	43.6m <sup>2</sup>	散在地	なし	古代墓跡	工事実施 (支障なし)
7	高島 211027	筒古70番5番	個人専用 住宅建築	H23.9.28	245.25m <sup>2</sup>	6.4m <sup>2</sup>	散布地・集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
8	沖洲原町 211084	沖洲原338番1	駐車場造成	H23.9.29	2,451m <sup>2</sup>	175.8m <sup>2</sup>	散布地	唐・土堤(不規 則)付近	古墳跡跡・不明陪葬	工事実施 (支障なし)
9	小笠伊勢 211067	三ヶ2225-1	宅地造成	H23.10.7	342m <sup>2</sup>	33.1m <sup>2</sup>	散在地・集落	(不明)	他生土器・古代風習器	工事実施 (支障なし)
10	福井村 211068	二ヶ2005番1 55号	個人専用 住宅建築	H23.10.11・12	1,867m <sup>2</sup>	213.1m <sup>2</sup>	散布地・集落	唐(近代) 唐(不明)	古代風習器・古代土器 古墳蓋中腰井・近世唐井 近世伊万里・不明土器類・不明陪葬	工事実施 (支障なし)
11	本江原町 211410	大門本江原字 57番の一部	個人専用 住宅建築	H23.10.21	500m <sup>2</sup>	30.5m <sup>2</sup>	散布地	(不明)	なし	工事実施 (支障なし)
12	三ヶ1 211073	三ヶ604番1	資材販売造成	H23.11.2	489m <sup>2</sup>	43.0m <sup>2</sup>	散布地	(不明)	近世道路・近世城中難戸	工事実施 (支障なし)
13	作道 211030	作道245番2	駐車場造成	H24.1.19	1,500m <sup>2</sup>	66.3m <sup>2</sup>	散布地・集落	自然道路(海沿) 生土器	工事実施 (支障なし)	
14	森木C 211044	松木19番1	駐車場造成	H24.3.19	2,095m <sup>2</sup>	107.5m <sup>2</sup>	散布地	唐・土堤(古代 土堤)付近 (中代) (不明)	古墳土器・古墳下脚部 古代風習器・中世鉢瓦 (不明)	工事実施 (歴史保存)
15	朴木C 211044	朴木266番1 外1番	個人専用 住宅建築	H24.3.14	699m <sup>2</sup>	25.1m <sup>2</sup>	散布地	唐(近現代)	なし	工事実施 (歴史保存)
16	黒瀬河又 211044	中野田新字東丸 56番15	個人専用 住宅建築	H24.3.19	261.2m <sup>2</sup>	16.2m <sup>2</sup>	散布地・集落	なし	陶文土器	工事実施 (支障なし)
計		14箇所・16件			対象面積 16,278.64m <sup>2</sup>	実発面積 1,259.3m <sup>2</sup>				

本発掘調査

番	遺跡名	所在地	概況	調査期間	発掘面積	種別	検出遺物	出土遺物	調査後の状態
1	本郷城跡 I	大門本郷字御用 21411 21409 2番地	宅地造成区域 追跡調査	E23.10.24-12.17	310m <sup>2</sup>	集落	滑・丸瓦、瓦器類(焼成)、生土塗・古代漆器 漆(古代)、土器(不明)、磨光石(石器製品)、4井		丁度平場 (未成なし)

第3表 平成23年度埋蔵文化財発掘調査一覧



●～⑬は第3表試験調査の番号を示す。

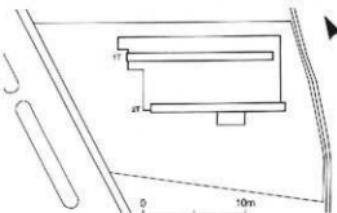
第10図 試験調査位置図

## 第1節 平成23年度試掘調査概要

### 1. 黒河尺目遺跡

所在 地 射水市黒河字前田446番1 外1筆  
調査期間 平成23年5月13日  
調査面積 対象面積: 367.17m<sup>2</sup> 発掘面積: 21.6m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明  
検出 遺構 なし  
出土 遺物 なし

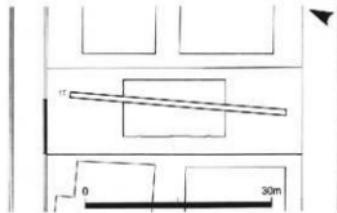
調査概要 対象地の現況は畠地で、標高約8mに位置する。土層は上から1層が耕作土、2層が淡黄色粘質シルト(5Y8/3)の地山である。平成13年度、西側に隣接する県道小杉姫中線下で本発掘調査を実施し、奈良・平安時代の遺跡を確認していたが、今回の対象地には当該期の遺構は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。



### 2. 八塚C遺跡

所在 地 射水市二口字早稲田1553-2  
調査期間 平成23年7月5日  
調査面積 対象面積: 595m<sup>2</sup> 発掘面積: 35.2m<sup>2</sup>  
調査原因 長屋住宅建築  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出 遺構 なし  
出土 遺物 なし

調査概要 対象地の現況は畠地で、標高約7mに位置する。土層は4層に細分され、地山は黄褐色シルト(2.5Y5/3)である。平成9・10年度、東側に隣接する住宅団地造成で本発掘調査を実施し、室町時代を主体とした遺跡を確認していたが、今回の対象地には遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



### 3. 生源寺II遺跡隣接地

所 在 地 射水市生源寺宮西132-3

調査期間 平成23年7月8日

調査面積 対象面積: 1,561.61m<sup>2</sup> 発掘面積: 77.9m<sup>2</sup>

調査原因 保育園園舎建築

調査担当者 田中 明・金三津英則

検出遺構 なし

出土遺物 なし



調査概要 平成11年度、北側に隣接する水田では場整備に伴う試掘調査が実施され、後世の耕地整理や粘土採掘等による遺構破壊が確認されたために、埋蔵文化財包蔵地には含まれなかった。今回の対象地では、遺構が検出される地山層は安定した堆積がみられたが、遺構や遺物の遺存が確認できなかったため、埋蔵文化財包蔵地には該当しない。



### 4. 干田遺跡

所 在 地 射水市青井谷44番4 外1筆

調査期間 平成23年7月21日

調査面積 対象面積: 78m<sup>2</sup> 発掘面積: 14.8m<sup>2</sup>

調査原因 道路拡幅工事(隅切り)

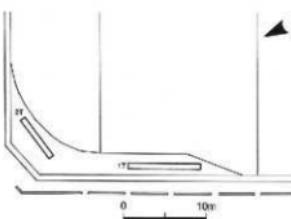
調査担当者 田中 明・金三津英則

検出遺構 なし

出土遺物 なし

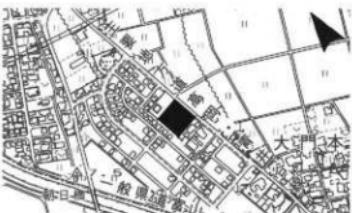


調査概要 対象地の現況は水田で、標高約12mに位置する。土層は3層に細分され、地山は灰オリーブ色シルト(75Y5/2)である。平成20年度、南東約110m地点で本発掘調査を実施し、弥生時代・鎌倉時代の溝や土坑等を確認していたが、今回の対象地には遺物を含む土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



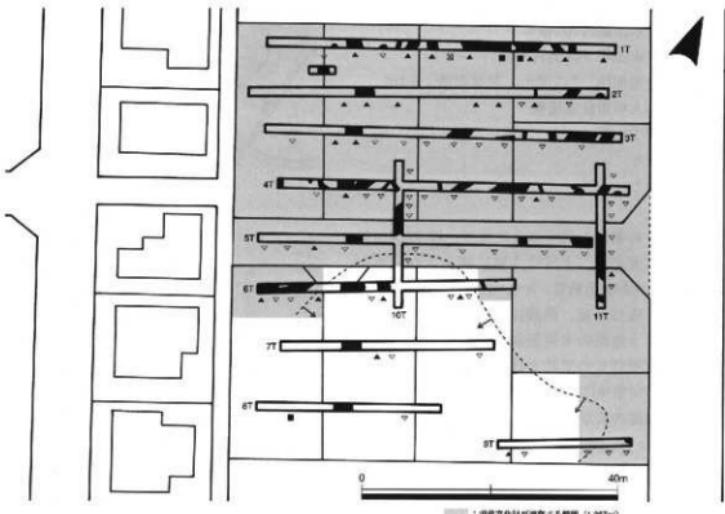
## 5. 本江畠田Ⅰ遺跡（第11・12図、図版11～13）

**所 在 地** 射水市大門本江字浦川736番1 外17筆  
**調査期間** 平成23年8月17日～22日  
**調査面積** 対象面積：2,966.41m<sup>2</sup> 発掘面積：347.3m<sup>2</sup>  
**調査原因** 宅地造成  
**調査担当者** 尾野寺克実・田中 明・金三津英則  
 松山充宏  
**検出遺構** 弥生～古墳時代：溝・土坑  
 奈良～平安時代：溝・土坑  
**出土遺物** 弥生土器・古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲・中世上師器



**調査概要** 対象地の現況は水田、標高8.7m～9.1mを測る。土層は7層に細分され、上下2層の旧地表面が遺存している。上層地山は浅黄色（25Y7/3）シルトで奈良～平安時代、下層地山はにぶい黄色（25Y6/3）シルトで弥生～古墳時代の生活面と考えられる。遺構は弥生～古墳時代と奈良～平安時代の二時期の溝・土坑を多数検出。弥生～古墳時代の遺構は下層地山から掘り込まれており、検出面は標高8m前後を測る。遺物は弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の弥生土器・古墳土師器が出土している。第11図1は有縦蓋、3は無頸鉢、5～8は有段壺、11は球胴で丸底の直口壺である。奈良～平安時代の遺構は上層地山から掘り込まれており、検出面は標高8.6m前後を測る。1～8Tの西側で検出した溝は、方向・規模・堆積が類似しており同一遺構と考えられる。遺物は須恵器が出土。第11図17～23は坏B、26・27は広口壺の口縁部である。

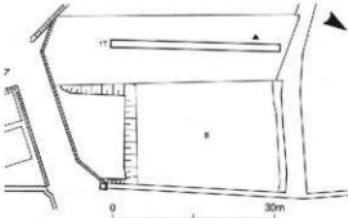
6～9Tで谷状地形が確認できた一部を除く、対象地内のはば全域で遺跡が広がっており、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、記録保存（1,957m<sup>2</sup>）が必要である。



## 6. 黒河南遺跡（第12図）

所 在 地 射水市黒河字竹山3135-1 外2筆  
調査期間 平成23年9月26日  
調査面積 対象面積: 461m<sup>2</sup> 発掘面積: 43.6m<sup>2</sup>  
調査原因 駐車場造成  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 なし  
出土遺物 古代須恵器

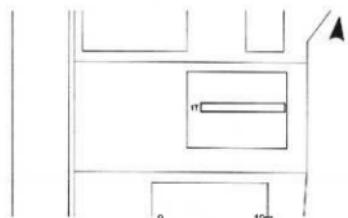
**調査概要** 対象地の現況は荒蕪地である。土層は上から1層がにぶい黄色、2層が黒褐色、3層が黄褐色の全て造成盛土。4層は黒褐色粘質シルトの旧耕作土、5層はオーラブ黄色(5Y6/3)シルトの地山である。地山直上に円礫が多く混じる堆積であり、居住域に適さない場所と考えられる。遺物は造成盛土から出土し、遺跡は確認できなかった。



## 7. 高島A遺跡

所 在 地 射水市鏡宮707番5  
調査期間 平成23年9月28日  
調査面積 対象面積: 245.25m<sup>2</sup> 発掘面積: 6.4m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明  
検出遺構 なし  
出土遺物 なし

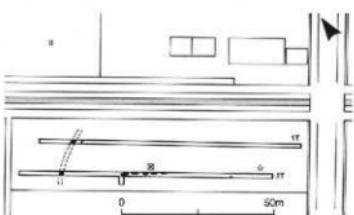
**調査概要** 対象地の現況は造成地で、標高2.4mに位置する。土層は5層に細分され、地山は明緑灰色粘質シルト(75GY8/1)である。平成17年度、西側に隣接する宅地造成に伴う道路の本発掘調査を実施し、弥生～古墳時代の遺跡を確認していたが、今回の対象地には当該期の遺構は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。



## 8. 沖塚原東B遺跡

所在 地 射水市沖塚原133番1  
調査期間 平成23年9月29日  
調査面積 対象面積: 2,451m<sup>2</sup> 発掘面積: 173.6m<sup>2</sup>  
調査原因 駐車場造成  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 時期不明: 溝2条・土坑6基  
出土遺物 中世土器・不明磁器

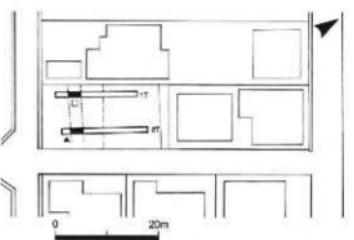
**調査概要** 対象地は遺跡包蔵地の北部に位置し、現況は水田である。土層は3層に細分され、地山は浅黄色(2.5Y7/3)シルトである。検出遺構からは出土遺物もなく、時期の特定には至らなかった。出土遺物は全て耕作土。昭和40年代のは場整備により地山層が削平を受け均平化されているため、遺跡の広がりは見られなかった。



## 9. 小杉伊勢領遺跡 (図版14)

所在 地 射水市三ヶ2235-1  
調査期間 平成23年10月7日  
調査面積 対象面積: 342m<sup>2</sup> 発掘面積: 33.1m<sup>2</sup>  
調査原因 宅地造成  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 時期不明: 溝1条  
出土遺物 弥生土器・古代須恵器

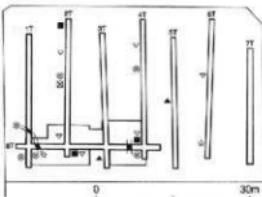
**調査概要** 対象地の現況は水田で、標高4.8mに位置する。上層は上から1層が暗灰黄色の耕作土、2層が黄灰色粘質シルトの水田床土、3層がオリーブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1)の地山である。検出遺構からは遺物が出土しなかったため、時期不明である。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



## 10. 加茂社遺跡（第12図、図版15）

所 在 地 射水市三ヶ2695番1 外1筆  
調査期間 平成23年10月11日・12日  
調査面積 対象面積：1,867m<sup>2</sup> 発掘面積：213.1m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明・金三津英則  
検出遺構 近世：溝1条 時期不明：溝1条  
出土遺物 古代須恵器・古代土師器・中世珠洲  
中世土師器・近世越中瀬戸・近世唐津  
近世伊万里・不明土師器・不明磁器

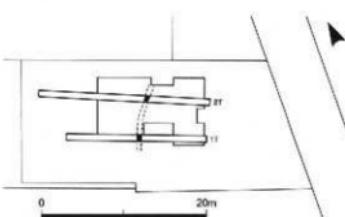
**調査概要** 対象地は下条川から約100m右岸に位置する。平成6年度、北側に隣接する住宅団地道路下で本発掘調査を実施し、弥生～古墳・平安・鎌倉～室町時代の遺構を確認していたが、今回の対象地には近世の溝のみの検出であり、遺物も殆ど耕作土より出土のため、遺跡の広がりは見られないと考える。



## 11. 本江宮田遺跡

所 在 地 射水市大門本江字苗代576番1の一部  
調査期間 平成23年10月21日  
調査面積 対象面積：500m<sup>2</sup> 発掘面積：30.5m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明  
検出遺構 時期不明：溝1条  
出土遺物 なし

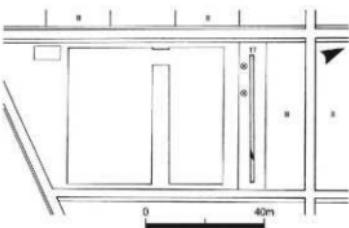
**調査概要** 土層は上から1層が黄灰色の耕作土、2層が淡黄色(2.5Y8/3)粘質シルトの地山である。遺構覆土には黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)が堆積している。対象地に遺跡の広がりはない。遺跡の中心地は、平安時代頃の整備といわれる古道「熊野往来」の推定ルートが通る大門本江集落の中央付近が想定される。



## 12. 三ヶI遺跡（第12図）

所 在 地 射水市三ヶ664番1  
調 査 期 間 平成23年11月2日  
調 査 面 積 対象面積：489m<sup>2</sup> 発掘面積：43.0m<sup>2</sup>  
調 査 原 因 資材置場造成  
調 査 担 当 者 田中 明  
検 出 遺 構 時期不明：溝1条  
出 土 遺 物 近世磁器・近世越中漸戸

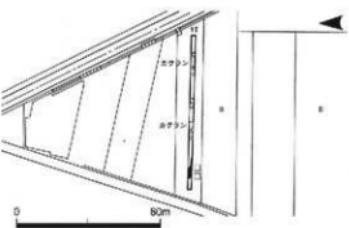
調査概要　対象地の現況は水田で、標高約3mに位置する。土層は3層に細分され、地山は灰白色（5GY8/1）シルトである。検出遺構からの遺物はなく、時期不明である。出土遺物である近世陶磁器は全て耕作土からの出土であり、流れ込みによる堆積と考える。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



## 13. 作道遺跡（第12図・図版16）

所 在 地 射水市作道245番2  
調 査 期 間 平成24年1月19日  
調 査 面 積 対象面積：1,500m<sup>2</sup> 発掘面積：69.3m<sup>2</sup>  
調 査 原 因 駐車場造成  
調 査 担 当 者 田中 明・金三津英則  
検 出 遺 構 弥生時代：自然流路1条  
出 土 遺 物 弥生土器（後期終末）

調査概要　土層は5層に細分され、地山は浅黄色（2.5Y7/3）シルトである。遺構から弥生土器が出土したが、腐植物を多く含む人為的ではない自然流路であると考え、保護措置の必要性はない判断した。第12図46は口径15.2cmを測る有段窯である。地山層を掘り込む近現代の搅乱が著しいため、対象地に遺跡の広がりは見られないものと考える。



#### 14. 朴木C遺跡（第12図・図版17）

所 在 地 射水市松木19番1

調査期間 平成24年3月9日

調査面積 対象面積：2,095m<sup>2</sup> 発掘面積：107.6m<sup>2</sup>

調査原因 駐車場造成

調査担当者 田中 明・金三津英則

検出遺構 弥生～古墳時代：溝・土坑

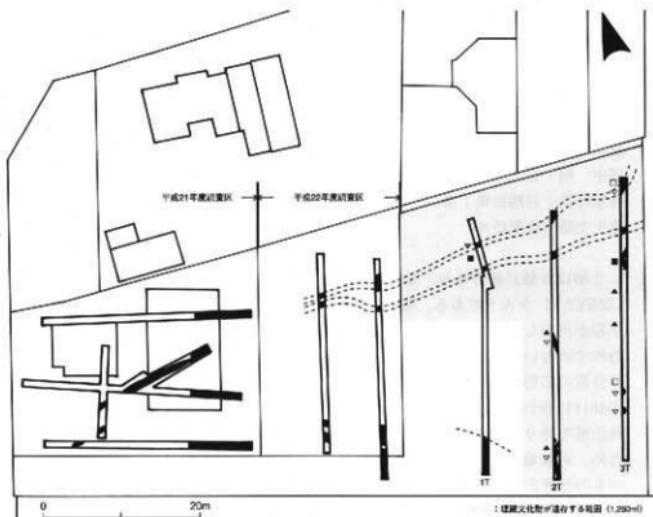
奈良～平安時代：溝

鎌倉～室町時代：溝 時期不明：溝

出土遺物 弥生土器（中期）・古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲



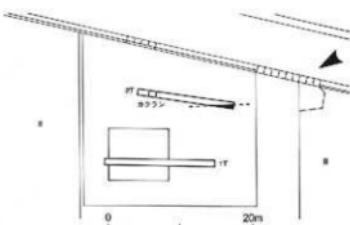
**調査概要** 対象地の現況は水田、標高約2.3mに位置する。土層は暗灰黄色粘質土の耕作土直下で浅黄色シルトの地山であり、遺構覆土に黒褐色シルトが堆積している。弥生～古墳時代の溝は全てのトレンチ北側で検出し、規模・堆積・方向等から東西方向にのびる2条の溝と考えられる。この溝は、前年度西側隣接地において検出した溝と繋がる遺構と考える。土坑からは口縁下端部に刻みがある弥生時代中期後半の弥生土器窯（第12図49）や「く」の字口縁部の古墳時代前期初頭の土師器窯（第12図50）が出土している。検出遺構は対象地の南西域以外の広範囲で確認され、いずれも遺物を包含している。古代・中世の遺構は削平で遺存状況が良くないが、弥生～古墳時代の遺構は良好に遺存している。これらの遺構は対象地外へものびており、遺跡保護を必要とする範囲（1,260m<sup>2</sup>）から更に東側に遺跡（集落）の中心があるものと考えられる。



## 15. 朴木C遺跡

所在 地 射水市朴木286番 外1筆  
調査期間 平成24年3月14日  
調査面積 対象面積: 499m<sup>2</sup> 発掘面積: 26.1m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明  
検出遺構 近現代: 溝1条  
出土遺物 なし

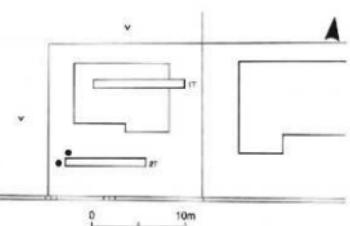
調査概要 対象地の現況は水田で、標高約2mに位置する。土層は3層に細分され、地山は灰白色(2.5Y8/2)粘質シルトである。検出した溝からの遺物は無かったが、堆積していた土層が耕作土であったため、近現代の用排水と考える。地山層を掘り込む擾乱も確認されたことからも、遺跡の広がりは見られないものと考える。

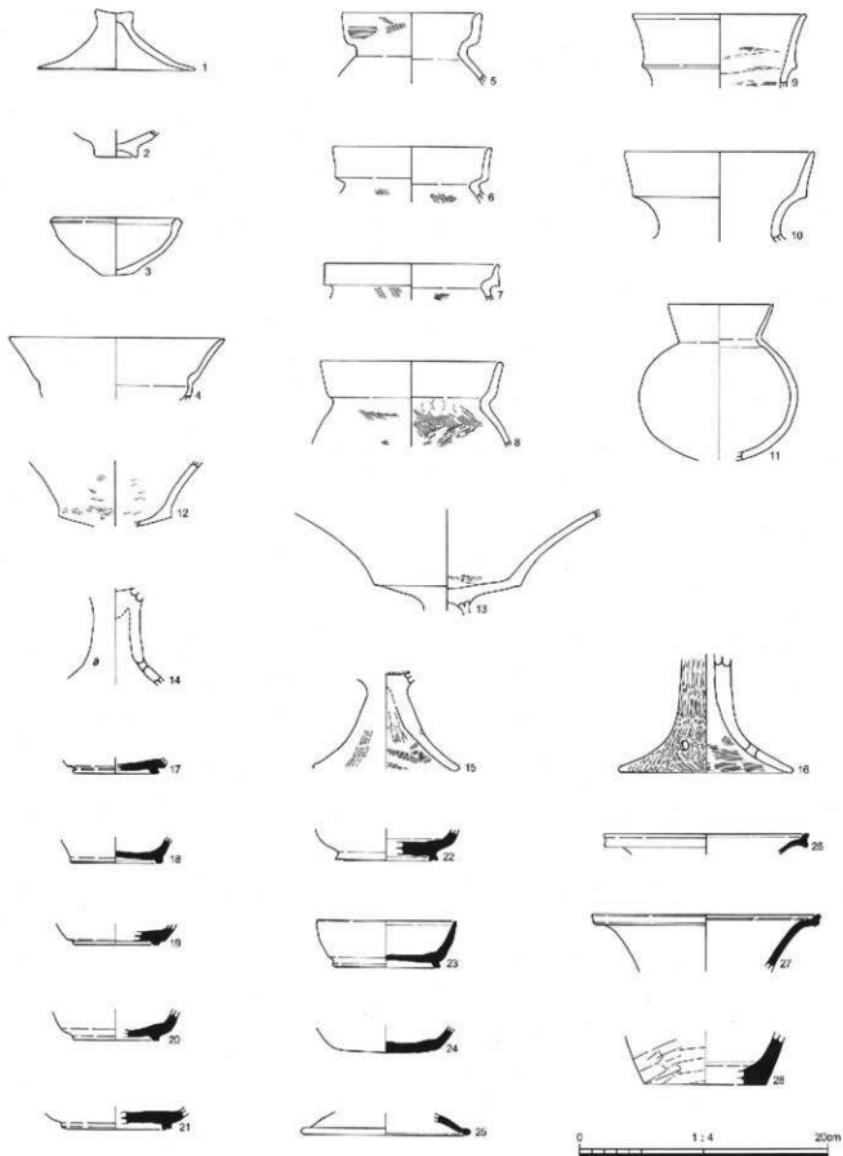


## 16. 黒河尺目遺跡 (第12図・図版18)

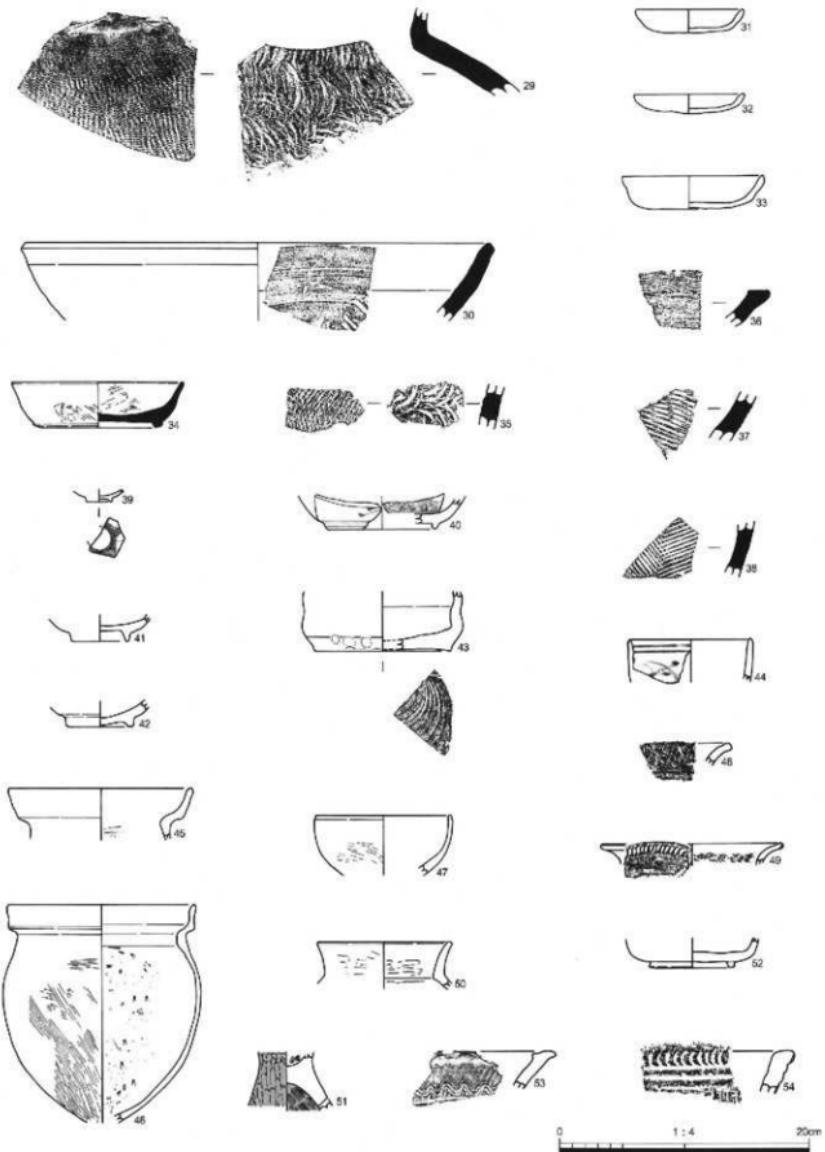
所在 地 射水市中老田新字星丸568番18  
調査期間 平成24年3月19日  
調査面積 対象面積: 261.2m<sup>2</sup> 発掘面積: 16.2m<sup>2</sup>  
調査原因 個人専用住宅建築  
調査担当者 田中 明  
検出遺構 なし  
出土遺物 繩文土器 (中期前葉)

調査概要 遺跡包蔵地の南部、標高13mに位置する。土層は3層に細分され、地山は灰白色(2.5Y8/2)やや粘質シルトである。第12図54は縄文時代中期前葉の新崎式の深鉢で、耕作土からの出土である。昭和61年度、西方約110mの県道下で本発掘調査を実施し、古代の遺構を確認しているが、今回の対象地では遺跡の広がりは見られなかった。





第11図 遺物実測図 [試掘調査] (1/4)  
本江畠1遺跡 (1~28)



第12図 遺物実測図【試掘調査】(1/4)

本江塚田I遺跡(29~33) 黒河南遺跡(34) 加茂社遺跡(35~42) 三ヶI遺跡(43・44) 作造遺跡(45~47)  
朴木C遺跡(48~53) 黒河尺目遺跡(54)

第4表 出土遺物觀察表(試掘調査)

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第11図	1	3 T	土師器	有柄蓋	12.9	4.9		本江畠田 I 遺跡	ほぼ完存
	2	4 T	土師器	台付鉢			3.3	本江畠田 I 遺跡	底完存
	3	4 T	土師器	無底鉢	10.0	4.7	2.7	本江畠田 I 遺跡	口13/8 底完存
	4	4 T	土師器	鉢	17.4			本江畠田 I 遺跡	口1/8
	5	4 T	土師器	甕	11.0			本江畠田 I 遺跡	口1/6
	6	9 T	土師器	甕	12.7			本江畠田 I 遺跡	口1/2
	7	排土	土師器	甕	14.0			本江畠田 I 遺跡	口1/4
	8	5 T	土師器	甕	14.4			本江畠田 I 遺跡	口1/8
	9	4 T	土師器	甕	13.9			本江畠田 I 遺跡	口1/4
	10	5 T	土師器	甕	15.0			本江畠田 I 遺跡	口1/5
	11	1 1 T	土師器	広口甕	8.5	12.8		本江畠田 I 遺跡	口完存 体1/2
	12	5 T	土師器	高环				本江畠田 I 遺跡	环1/2
	13	5 T	土師器	高环				本江畠田 I 遺跡	环1/8
	14	排土	土師器	高环				本江畠田 I 遺跡 穿孔2箇所	破片
	15	5 T	土師器	高环				本江畠田 I 遺跡 穿孔途中	脚1/5
	16	排土	土師器	高环(器台)				本江畠田 I 遺跡 穿孔3箇所	脚1/2
	17	2 T	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底1/4
	18	6 T	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底1/4
	19	3 T	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底1/2
	20	3 T	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底1/6
	21	2 T	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底5/16
	22	排土	須恵器	環B				本江畠田 I 遺跡	底1/2
	23	排土	須恵器	環B	11.2	3.8		本江畠田 I 遺跡	口1/8 底1/4
	24	4 T	須恵器	環A				本江畠田 I 遺跡	底ほぼ完存
	25	2 T	須恵器	環C	13.2			本江畠田 I 遺跡	破片
	26	1 T	須恵器	広口甕	16.4			本江畠田 I 遺跡	自然軸付着
	27	2 T	須恵器	広口甕	18.3			本江畠田 I 遺跡	口1/8
	28	3 T	須恵器	甕			10.0	本江畠田 I 遺跡	底1/6
第12図	29	1 T	須恵器	甕				本江畠田 I 遺跡 青海波文	破片
	30	1 T	珠潤	片口鉢	37.6			本江畠田 I 遺跡	破片
	31	1 T	中世土師器	皿	8.8	1.9	7.1	本江畠田 I 遺跡	口1/3
	32	1 T	中世土師器	皿	9.0	1.6	7.1	本江畠田 I 遺跡	口1/8 底完存
	33	1 T	中世土師器	皿	11.5	2.7	10.3	本江畠田 I 遺跡	口1/8 体完存
	34	1 T	須恵器	環B	13.9	3.8	9.4	黒河南遺跡 械成不良	口1/4
	35	3 T	須恵器	甕(蓋)				加茂社遺跡 青海波文	破片
	36	8 T	珠潤	片口鉢				加茂社遺跡 波状沈線	破片
	37	4 T	珠潤	甕(蓋)				加茂社遺跡	破片
	38	2 T	珠潤	甕(蓋)				加茂社遺跡	破片
	39	2 T	伊万里	碗			1.9	加茂社遺跡	底1/2
	40	8 T	伊万里	皿			8.6	加茂社遺跡	底1/5
	41	8 T	唐津	碗			4.8	加茂社遺跡	底1/2
	42	6 T	唐津	碗			5.4	加茂社遺跡	底1/4
	43	1 T	越中瀬戸	圓鉢			11.0	三ヶI 遺跡 鉄輪	底1/4
	44	1 T	伊万里	碗	9.8			三ヶI 遺跡	口1/6
	45	1 T	弥生土器	甕	15.0			作道遺跡	破片
	46	1 T	弥生土器	甕	15.2			作道遺跡	口1/4
	47	1 T	弥生土器	鉢	11.0			作道遺跡	口1/5
	48	3 T	弥生土器	甕				朴木C 遺跡 斜行短線文	破片
	49	3 T	弥生土器	甕	14.4			朴木C 遺跡 口縁下端部刻み	口1/8
	50	3 T	土師器	甕	10.7			朴木C 遺跡	破片
	51	3 T	土師器	高环				朴木C 遺跡 外面赤彩	破片
	52	2 T	須恵器	環B			6.8	朴木C 遺跡	底完存
	53	2 T	須恵器	甕				朴木C 遺跡 波状沈線	破片
	54	2 T	縄文土器	深鉢				黒河尺目遺跡 新崎式	破片

口：口縁部 底：底部 体：体部 环：环部 脚：脚部

水戸田地区分布調査 図版1

1. 水戸田遺跡遠景  
(北から)



2. 生源寺Ⅲ遺跡遠景  
(北から)



3. 重機掘削(東から)



図版2 水戸田地区分布調査



1. 57トレンチ土層断面  
(西から)



2. 299トレンチ土層断面  
(西から)



3. 92トレンチ遺構検出  
(南から)

水戸田地区分布調査 図版 3

1. 92トレンチ遺物  
出土状況(東から)



2. 93トレンチ遺構  
検出(西から)

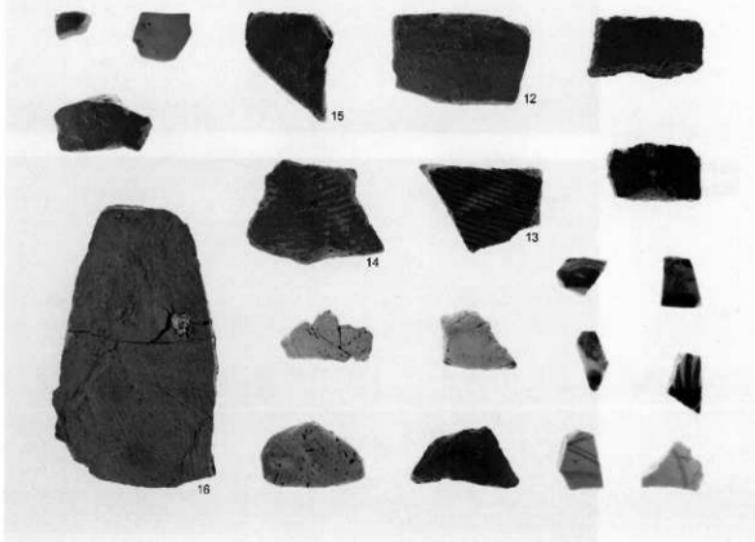
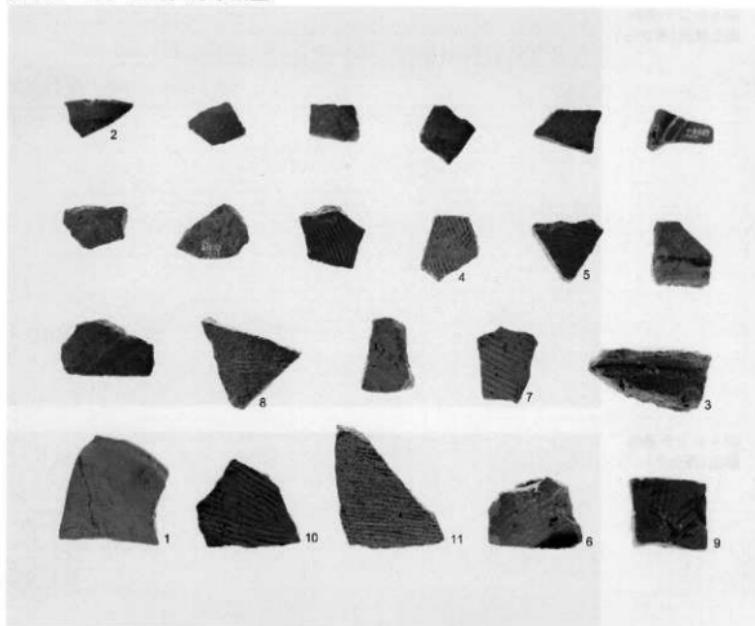


3. 93トレンチ遺物  
出土状況(北から)



図版4 水戸田地区分布調査

出土遺物  
土器



大乘妙典塔一字一石經調査 図版 5

石塔近景  
(西から)



図版6 大乗妙典塔一字一石経調査



1. 石塔取上げ状況  
(西から)



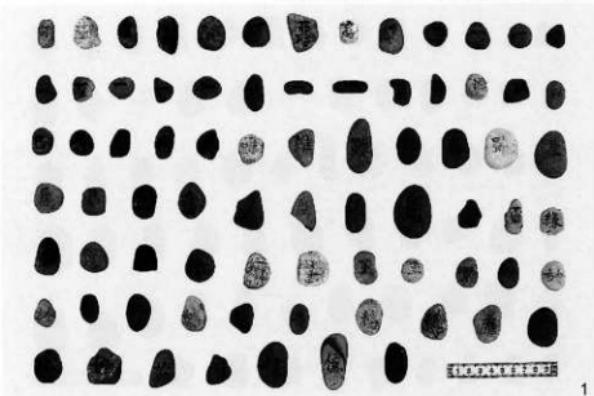
2. 円筒管計測状況  
(北から)



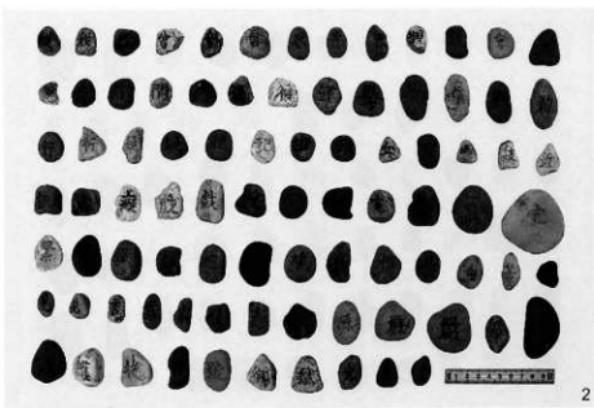
3. 一字一石出土状況  
(西から)

大乘妙典塔一字一石經調査 図版 7

1. 一字一石經  
(あ行)



2. 一字一石經  
(か行)



3. 一字一石經  
(さ・す・も)



1

2

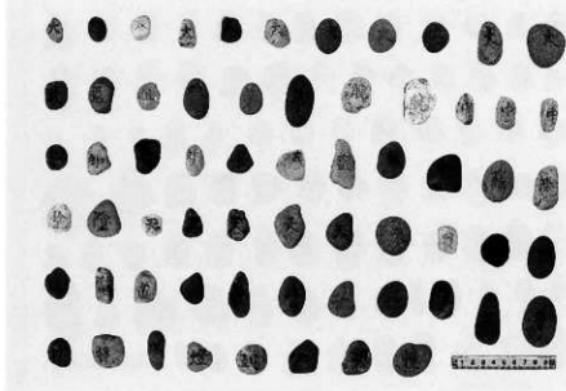
3

図版8 大乘妙典塔一字一石經調査

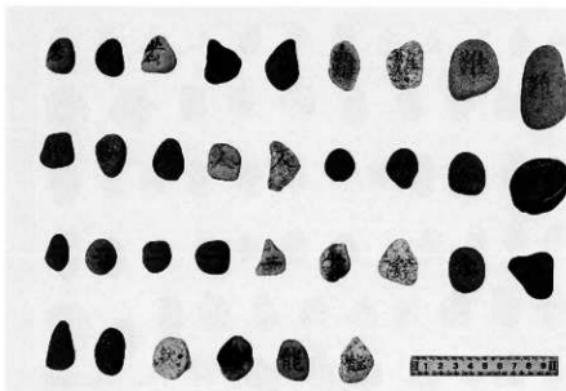
1. 一字一石經  
(し)



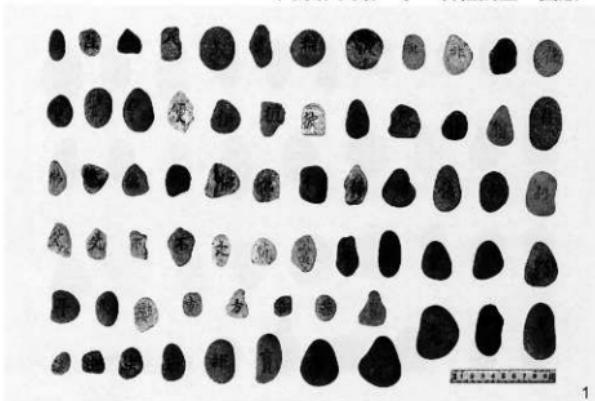
2. 一字一石經  
(た行)



3. 一字一石經  
(な行)

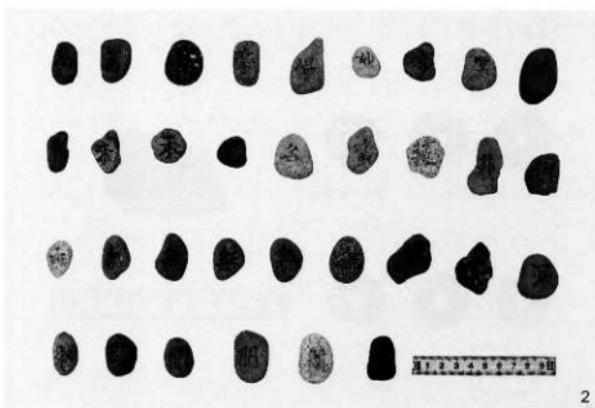


1. 一字一石經  
(は行)



1

2. 一字一石經  
(ま行)



2

3. 一字一石經  
(や行)



3

図版10 大乗妙典塔一字一石經調査

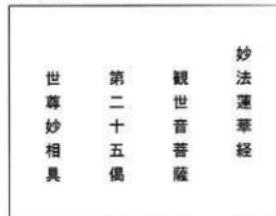
1. 一字一石經  
(ら行・わ)



2. 寛永通宝・珠洲



3. 経文



本江畠田Ⅰ遺跡試掘調査 図版11

1. 対象地全景  
(南から)



2. 1トレンチ掘削  
状況（東から）



3. 4トレンチ透構  
検出（西から）



図版12 本江畠田Ⅰ遺跡試掘調査



1. 11トレンチ遺構検出  
(南から)



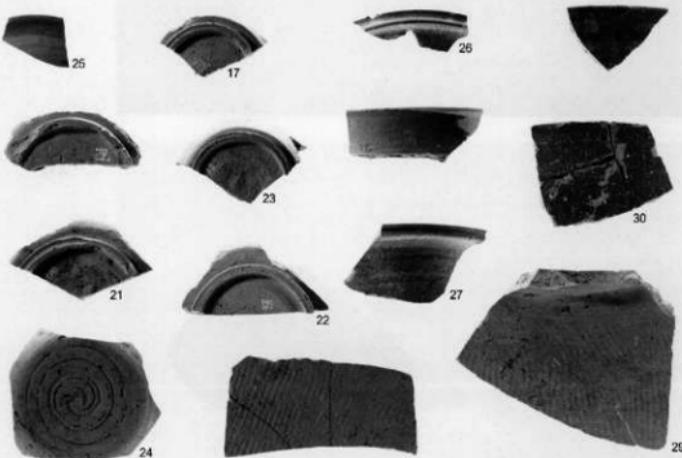
2. 5トレンチ遺物出土状況  
(東から)



3. 5トレンチ遺物出土状況  
(東から)

本江畠 I 遺跡試掘調査 図版13

出土遺物  
土器



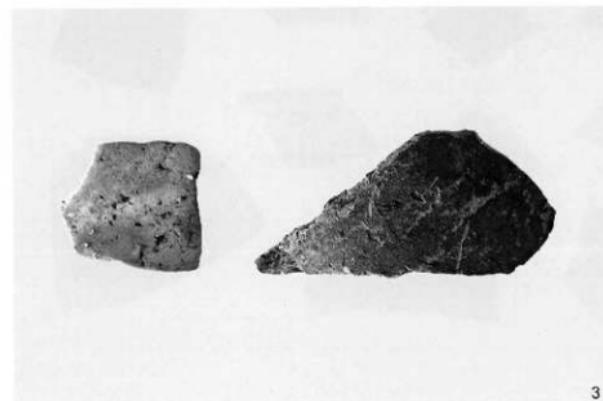
図版14 小杉伊勢領遺跡試掘調査



1. 対象地全景  
(南から)



2. 2トレンチ遺構検出  
(西から)



3. 出土遺物  
土器

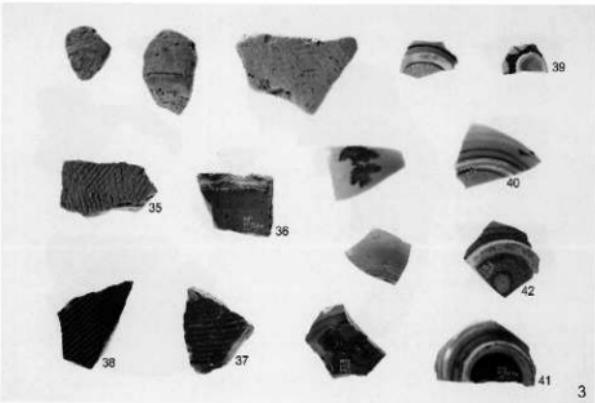
1. 1トレンチ掘削  
状況（東から）



2. 1トレンチ遺構  
検出（南から）



3. 出土遺物  
土器



図版16 作道遺跡試掘調査



1. 対象地全景  
(東から)



2. 1トレンチ遺構検出  
(西から)



3. 出土遺物  
土器

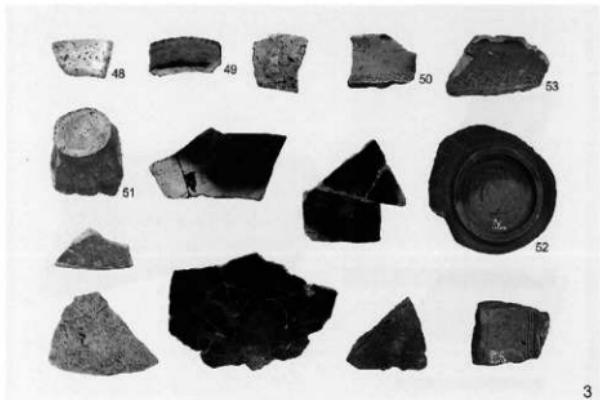
1. 2トレンチ遺構  
検出（北から）



2. 3トレンチ遺構  
検出（東から）



3. 出土遺物  
土器



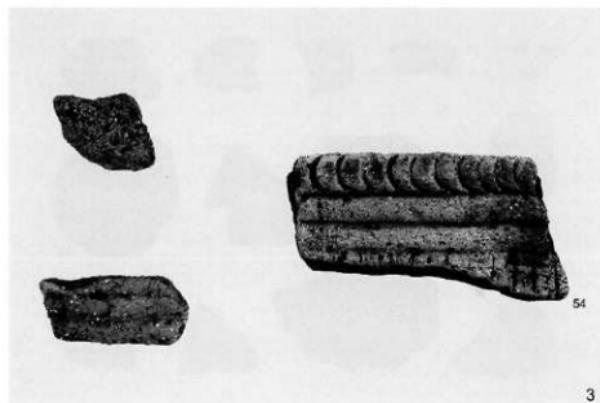
図版18 黒河尺目遺跡試掘調査



1. 対象地全景  
(西から)



2. 2トレンチ土層断面  
(南から)



3. 出土遺物  
土器

54

3

# 報告書抄録

ふりがな 書名	いみずしないいせきはつくつちょうさほうこく 射水市内遺跡発掘調査報告V						
副書名	水戸田地区分布調査・大乘妙典塔一字・石経調査他						
著者名	田中 明 金三津英則 松山充宏						
編集機関	射水市教育委員会						
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地 TEL0766-59-8093						
発行年月日	西暦2013年1月15日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
みたけいせき 水戸田遺跡		211	376	36°42'19"	137°04'33"		県営ほ場整備事業
じょうげんじ いせき 生源寺II遺跡	いせき 射水市水戸田	211	421	36°42'17"	137°04'12"	20111013~ 20111116	230 県営ほ場整備事業
じょうげんじ いせき 牛源寺III遺跡		211	422	36°42'00"	137°04'08"		県営ほ場整備事業
くろがねじゆくめい 黒河尺目遺跡	射水市黒河字前田	211	104	36°41'57"	137°07'04"	20110513	21.6 個人専用住宅建築
かわくわ いせき 八塚I遺跡	射水市二上字早稻田	211	448	36°43'32"	137°03'33"	20110705	35.2 長屋住宅建築
じょうげんじ いせき 生源寺II遺跡隣接地	射水市生源寺宮西	211	421	36°42'10"	137°04'02"	20110708	77.9 保育園園舎建築
ほせじ いせき 千田遺跡	射水市青井谷	211	259	36°41'02"	137°04'45"	20110721	14.8 道路拡幅工事(隅切り)
ほんごうはねだい いせき 本江畑田I遺跡	射水市大門本江字瀬川	211	411	36°42'55"	137°03'21"	20110817~22	347.3 宅地造成
くろがねじゆくめい 黒河南遺跡	射水市黒河字竹山	211	127	36°41'54"	137°06'42"	20110926	43.6 駐車場造成
たしまし いせき 高島A遺跡	射水市鏡宮	211	027	36°45'14"	137°05'15"	20110928	6.4 個人専用住宅建築
あおつかねじゆくめい 沖塚原東B遺跡	射水市沖塚原	211	034	36°44'51"	137°04'46"	20110929	173.6 駐車場造成
こすぎい いせき 小杉伊勢領遺跡	射水市三ヶ	211	087	36°42'59"	137°05'26"	20111007	33.1 宅地造成
かわくわ いせき 加茂II遺跡	射水市三ヶ	211	088	36°42'56"	137°05'58"	20111011~12	213.1 個人専用住宅建築
ほんごうはねだい いせき 本江宮田遺跡	射水市大門本江字苗代	211	410	36°42'41"	137°03'32"	20111021	30.5 個人専用住宅建築
さんじ いせき 三ヶI遺跡	射水市三ヶ	211	073	36°43'23"	137°05'53"	20111102	43 資材販賣造成
つけしきじゆくめい 作道遺跡	射水市作道	211	030	36°45'05"	137°05'35"	20120119	69.3 駐車場造成
ほりのま いせき 朴木C遺跡	射水市朴木	211	044	36°45'25"	137°04'48"	20120309	107.6 駐車場造成
くろがねじゆくめい いせき 黒河尺目遺跡	射水市中老田新字屋丸	211	104	36°41'57"	137°07'04"	20120319	16.2 個人専用住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
水戸田遺跡	散布地	弥生・古代	不明溝・不明土坑	不明土師器	平成25年度試掘調査実施予定		
生源寺II遺跡	散布地	弥生・古代	不明溝・不明土坑	古代須恵器・中世珠洲	平成24年度試掘調査実施		
牛源寺III遺跡	散布地	古代	なし	なし	平成24年度試掘調査実施		
黒河尺目遺跡	散布地・集落	繩文・古代	なし	なし	本発掘調査の必要なし		
八塚C遺跡	散布地・集落	中晩・近世	なし	なし	本発掘調査の必要なし		
生源寺II遺跡隣接地	散布地	弥生・古代	なし	なし	本発掘調査の必要なし		
千田遺跡	散布地・集落	弥生・中世	なし	なし	本発掘調査の必要なし		
本江畑田I遺跡	集落	弥生~古墳 古代	古墳溝・古墳土坑 古代溝・古代土坑	古墳土師器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器	平成23年度本発掘調査実施		
黒河南遺跡	散布地	弥生・古代	なし	古代須恵器	本発掘調査の必要なし		
高島A遺跡	散布地・集落	弥生・古墳・中世	なし	なし	本発掘調査の必要なし		
沖塚原東B遺跡	散布地	中世	不明溝・不明土坑	中世土師器・不明磁器	本発掘調査の必要なし		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小杉伊勢領遺跡	散布地・集落	弥生～古墳・古代	不明溝	古代須恵器	本発掘調査の必要なし
加茂社遺跡	散布地・集落	弥生～古墳・古代	近世溝・不明溝	古代須恵器・古代土師器 中世珠洲・中世土師器・ 近世越中繩戸・ 近世伊万里	本発掘調査の必要なし
本江宮田遺跡	散布地	弥生～古墳・中世	不明溝	なし	本発掘調査の必要なし
三ヶ工遺跡	散布地	古代～近世	不明溝	近世磁器・近世越中繩戸	本発掘調査の必要なし
作遺遺跡	散布地・集落	弥生・古代	弥生自然流路	弥生土器（後期）	本発掘調査の必要なし
朴木C遺跡	散布地	弥生・中世	弥生溝・弥生土坑 古墳溝・古墳土坑 古代溝・中世溝 不明溝	弥生土器・古墳土師器 古代須恵器・中世珠洲	本発掘調査の必要あり (1.260m塗土保存)
朴木C遺跡	散布地	弥生・中世	近現代溝	なし	本発掘調査の必要なし
黒河尺目遺跡	散布地・集落	縄文・古代	なし	縄文土器	本発掘調査の必要なし

## 射水市内遺跡発掘調査報告V

-水戸田地区分布調査・大乘紗典塔一字・石經調査他-

2013(平成25)年1月15日 発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部893番地

TEL0766-59-8093

印 刷 株式会社タニグチ印刷

